

議事録

会議の名称	令和3年度第2回西東京市総合教育会議
開催日時	令和3年11月22日（月） 午前10時から正午まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎4階 第1・2委員会室
出席者	池澤市長、萱野副市長、木村教育長、米森教育長職務代理者、後藤教育委員会委員、山田教育委員会委員、服部教育委員会委員、今井教育委員会委員、勝見柳沢中学校統括校長、谷川子どもの権利擁護委員 (事務局) 保谷企画部長、栗田企画部参与兼企画政策課長、小倉企画政策課企画政策担当主任、利根川企画政策課企画政策担当主任、岡田子育て支援部副参与兼子育て支援課長、飯島教育部長、清水教育部特命担当部長、掛谷教育企画課長、佐々木教育企画課課長補佐、山縣教育指導課長、荒木統括指導主事、宮崎教育支援課長、和田社会教育課長 (傍聴人) 1人
議題	1 協議事項 令和3年度の教育に関する重点施策について 2 事業報告及び討議 (1) 地域と学校の連携・協働について (2) 柳沢中学校「働く人の話を聞く会」について (3) 地域における市民主体の活動の推進 3 懇談 「西東京市子どもの権利擁護委員の活動について」 4 その他
会議資料の名称	資料1 令和3年度の教育に関する重点施策（案）について 資料2 地域と学校の連携・協働について ～コミュニティ・スクール（学校運営協議会）及び地域学校協働活動～ 資料3 地域における市民主体の活動の推進 ～西東京市子ども・地域応援企画提案事業～
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○市長： ただいまから、令和3年度第2回西東京市総合教育会議を開会します。 「協議事項」、「事業報告及び討議」、子どもの権利擁護委員をお招きした「懇談」、最後に「その他」でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>○市長： 本日の会議は、西東京市総合教育会議会議規則に基づき公開します。傍聴は、西東京市総合教育会議傍聴要領に基づき10席までの傍聴を認めます。会議の議事録は、発言者の発言内容ごとの要点記録とします。御異議ございませんか。</p> <p>(異議なし)</p>	

○市長：

傍聴の申出があったため、傍聴希望者の入場を許可します。

○市長：

本日の総合教育会議は、今年度第2回目の会議です。

前回の会議では「令和3年度の教育に関する重点施策（案）について」、教育委員の皆様から、「表現が抽象的である」、「いじめや虐待の防止の要素が見えるとより良いのではないかなど、様々御意見をいただきました。

本日は、まず、御意見をもとに再検討を行った重点施策（案）について、事務局から説明をいたしまして、再度御審議いただきたいと思ひます。

また、今回の会議では、柳沢中学校の勝見校長先生と子どもの権利擁護委員の谷川委員をお招きしております。

勝見校長には、柳沢中学校における地域協力の取組について御紹介いただき、谷川委員には「西東京市子どもの権利擁護委員の活動について」をテーマにお話しいただく予定です。

いずれも現場の声や様子が分かる貴重な機会であると考えています。今回は意見交換がしやすいよう、座席配置も変更しております。皆様の教育に関する率直なお考えをお聞かせいただき、出席者全員で意見交換ができれば、と思ひますので、よろしくお願ひいたします。

議題1 協議事項 令和3年度の教育に関する重点施策について

○市長：

議題1「令和3年度の教育に関する重点施策について」を取り上げます。
企画政策課から今年度の重点施策の（案）について説明をお願いします。

（事務局説明）

○米森教育長職務代理者：

重点施策について、再確認をさせていただきます。今年度の重点施策は施策と事業の2本立てとなりますが、重点施策については、基本的にはある程度の期間を継続して掲げるものとし、各種事業については、定期的に点検を行い、見直していくという考え方でよろしいのでしょうか。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

重点施策は教育に関する大綱に基づき毎年度決定しているものです。おっしゃるとおり資料でお示した3つの重点施策についてはある程度ゆるぎないものではありませんが、この重点施策に基づいた実施事業については、総合教育会議において、取組報告をしていきたいと考えています。

○山田教育委員会委員：

重点施策の中で、同じ「環境」という表現で、一方はソフトであり、一方はハードであるとの説明をいただきましたが、ここに混乱が生じないように、取組事業を明確にすることでわかりやすく市民へ伝えていただきたいと思ひます。

○今井教育委員会委員：

重点施策に基づく事業について、教育委員会の視点と市長部局の視点とが、どのように関連しているのか御説明いただきたいと思います。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

学校教育の現場の動きは、市長部局では掴みづらいところがあります。教育委員会との連携は当然のこと、市長部局も積極的に学校現場へ出向くことでアプローチをしていきたいと考えています。

○服部教育委員会委員：

市長をはじめ、市の職員が学校現場をしっかりと見てくれるという事実が、市民からの信頼につながると感じます。大人が子どもたちにできることは環境づくりだと思いますので、現場の状況をより密に吸収してくれるような今回の重点施策に基づく取組は、非常にありがたいことだと思います。

○市長：

市民から見たときに、何が市長部局で何が教育委員会か、といった分け隔てはないと思います。市長部局と教育委員会がしっかりと連携を図りながら、子どもたちにとって何ができるのか考えていくことが大事だと考えています。

○市長：

それでは、令和3年度については、「子どもが健やかに育つ環境を整える」、「時代の変化に対応した学習環境等の整備」、「学校を核とした地域づくり」の3つを重点施策として位置付け、教育委員会と市長部局の双方で取組を進めていきたいと思います。

議題2 事業報告及び討議

○市長：

議題2「事業報告及び討議」に入ります。まず「(1) 地域と学校の連携・協働について」説明をお願いします。

(事務局説明)

○後藤教育委員会委員：

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動については、今年度の教育に関する重点施策の一つの事業として位置づけられていますので、今後市内学校で活動を広げていく際には、市長部局との連携を含めた課題や成果を明らかにしていただきたいと思います。

○市長：

学校を核としたコミュニティという視点でも、市長部局と教育委員会の連携は不可欠であるため、しっかりと関わりを持ちながら進めていきたいと思っています。

○山田教育委員会委員：

学校の働き方改革との矛盾が生じないような制度設計が大切だと思います。学校の負担を増やさないような支援をしっかりと行っていただきたいと思います。

○勝見柳沢中学校統括校長：

新学習指導要領を進めるうえで「Society5.0の実現」と「総合的なカリキュラムマネジメントの具現化」の2つポイントがあると考えます。これらは、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動には必要な施策だと捉えています。その際に学校にとって大事なものは、子どもたちを軸にどのような教育を行っていくかという考えをしっかりと持ち、進めていくことだと思います。西東京市や教育委員会においても、施策の軸をしっかりと捉え、示していただければ、学校にとって強い支援になると感じます。

○服部教育委員会委員：

社会教育活動の推進には、学校という場を深く理解する必要があると感じます。「学校がどのようなビジョンをもっているか」ということを、学校が発信していくことが非常に大切だと考えます。

社会教育活動の外部評価の仕組みはあるのでしょうか。活動に参加していただく方々へのアンケートを実施するなどし、是非意見を取り入れていただきたいと思います。

○掛谷教育企画課長：

それぞれの学校での活動には地域の方に入らせていただいているので、その中で意見聴取を行っていきたく思います。また、制度の導入に際しては、社会教育委員の会議から提言をいただいています。社会教育委員の会議に状況を報告させていただき、御意見をいただきたいと思います。

○服部教育委員会委員：

外部評価は社会教育委員によるものと理解してよいのでしょうか。

○掛谷教育企画課長：

社会教育委員による評価のほか、教育委員会の取組として第三者の学識経験者による点検評価制度がありますので、そちらからも御意見をいただきたいと思います。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

市民としての立場から、学校からの投げかけがあると、地域住民としても動きやすいと感じます。また、現役の保護者との世代の違いによる考え方の違いが課題であるとも認識しています。

○今井教育委員会委員：

放課後子供教室は、学校によってその実施状況に差が大きいと感じますが、どのようにお考えでしょうか。

○和田社会教育課長：

特に学習機会の提供について、学校による差が生じていると認識しています。各運協との会議において情報共有を図るほか、ヒアリングを実施し、意見交換をしながら進めていきたいと考えています。

○市長：

次に移りたいと思います。「(2) 柳沢中学校における地域協力の取組紹介」についてお願いします。

(事務局説明)

○勝見柳沢中学校統括校長：

はじめに、「働く人の話を聞く会」に参加いただいた皆様に、生徒の大きな励みになったことをお礼したいと思います。この会は単発的な教育活動ではなく、柳沢中学校をどのように改革していくかの取組の一つであり、しっかりと地域との協働に結び付けていきたいと考えています。柳沢中学校での教育活動を今年度の重点施策に照らし合わせると、「子どもが健やかに育つ環境を整える」では、生命尊重教育を一番重視しています。「時代の変化に対応した学習環境等の整備」では、今年度から3年間、外部の財団から支援を受け、海洋教育パイオニアスクールプログラムに取り組み、今年度はオンラインによるイカの解剖を実施しました。三つ目の「学校を核にした地域づくり」にこの「働く人の話を聞く会」が位置付けられると思います。

地域にしっかりと開き、地域の声を受け止め、学校をどのように改革していくかを検討するため、昨年度からカリキュラムマネジメント会議にPTA会長や地域の方に参画いただいています。「働く人の話を聞く会」は本校の財産として、職場体験が復活した場合でも、継続して実施していきたいと考えています。

この事業では30人近い講師の方にお越しいただき、17のブースを開設し、生徒が約2時間のプログラムで3つのブースを回ります。職場体験は1つの職業を体験しますが、この取組では幅広い仕事を知ることができ、職業意識が培われることのメリットがあります。学校は地域が誇れる、みんなが集える場所であることが理想であると感じます。

○服部教育委員会委員：

どの地域でも待ち望んでいるような取組かと感じますので、校長会等で周知し、他校でも展開を図っていただきたいと思います。

○勝見柳沢中学校統括校長：

前任校でもおやじの会があり、授業をお願いしたことがあります。それぞれの学校や地域での状況が様々なので、ベースを作ることが大切かと思います。そのうえで、それぞれの学校がそれぞれのスタイルで実施することが重要だと思います。

○米森教育長職務代理者：

子どもたちが目を外に向けて知識を吸収することは非常に大切なことだと思います。また、金融面での力を理解し、身につけることができる機会にさせていただくと更に良いと感じました。

○山田教育委員会委員：

将来AIに取って代わられてしまう職種がたくさんあります。新しい時代に対応する力を身に付けられる教育も必要かと思いますがお考えをお聞かせください。

○勝見柳沢中学校統括校長：

新しい時代に対応する力を身につけることとともに、仕事に取り組む際に「我慢する」、「汗を流して頑張る」という力をつけることをイメージしながら、この事業を実施しました。

○今井教育委員会委員：

生徒が今後の進路を考える時期にこのような取組があることが素晴らしいことであると感じました。地域の協力によって子どもたちにエールを送ることはとても大切に思います。

○後藤教育委員会委員：

子どもたちが体験的に学ぶことができる良い取組だと思います。活動を地域に広げる工夫があれば教えていただけますか。

○勝見柳沢中学校統括校長：

まず、校長、副校長が地域に入り込んで、学校として一体感をもって取り組むことが大事だと思います。子どもたちがワクワクドキドキする教育は何だろう、ということを教職員と地域と一緒に考えていくことが大切です。

○市長：

学校が地域に入っていくこと、地域が学校に入っていくこと、その両面が必要に感じます。おやじの会についても、ある学校とない学校とがありますので、横の連携を図る取組ができればと考えています。その際には勝見校長にもお力を貸していただきたいと思います。

○市長：

次に移りたいと思います。「(3) 地域における市民主体の活動の推進」についてお願いします。

(事務局説明)

○服部教育委員会委員：

公民館では、大人を対象とした学びの場を市民が企画する事業がありますが、子どもを対象とした企画はなかなか機会がなかったと思います。是非継続いただき、活動を広げていただきたいと思います。

○山田教育委員会委員：

映像に残して他の子どもたちにも共有することは可能でしょうか。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

権利の関係で広く映像を提供することが難しいと伺っています。

○山田教育委員会委員：

市が支援する事業なので、契約に盛り込むなどし、シェアできるようにしていただくほうが多くの子どもたちにメリットがあるのではないのでしょうか。

○栗田企画部参与兼企画政策課長：

今回の事業は明保中学校の学校運営協議会の事業として実施している都合上難しいですが、今後同様の取組を実施する際は広く展開できるよう検討します。

○市長：

できるだけ多くの子どもたちに機会を提供したいと思いますので、来年度以降の事業展開の際に検討したいと思います。

議題3 懇談 「西東京市子どもの権利擁護委員の活動について」

○市長：

続きまして、「議題3」の「懇談」に入ります。初めに子どもの権利擁護委員から「西東京市子どもの権利擁護委員の活動について」をテーマにお話しいただきます。その後、意見交換を行いたいと思います。事務局から谷川委員の紹介をさせていただきます。

(事務局委員紹介)

(谷川委員スライドに沿って説明)

○山田教育委員会委員：

ほっとルームができた際、訪問させていただきました。当初は相談のツールとしてのメールの扱いがあまり明確ではなかったと感じました。現在はメールでの相談数はどのくらいなのでしょう。

○谷川子どもの権利擁護委員：

メール相談については、申込みの部分をメールで行い、電話や面談につなげていくこととしていますが、メールを送る側にもメールでしか相談できない事情がありますので、そこに配慮しながらメール相談を行っています。

メール相談の割合は、実はあまり多くなく、子どもからの初回相談の割合ではメールは全体の半分、他が電話と面談です。子どもからのメール相談は深夜帯が多い印象です。

○山田教育委員会委員：

子どもたちが使いやすいLINEなどのSNSの導入の検討はあるのでしょうか。

○谷川子どもの権利擁護委員：

子どもたちにとってのLINEは即応性が大事で、相談を受ける側が24時間対応できる状況が必要であることから、導入には至っておりません。子どもたちにとって身近な相談相手であるように工夫したいと思います。

○山田教育委員会委員：

相談件数について、最近の相談は、1回で済まないケースが増えているという理解でよろしいでしょうか。

○谷川子どもの権利擁護委員：

子どもたちからの相談については、ほとんど1回で終わるケースはありません。対応回数が非常に増えているのは事実ですが、丁寧な相談活動を心がけています。

○山田教育委員会委員：

今のような状況が続くと、いずれパンクする可能性が想定されますがいかがでしょうか。

○谷川子どもの権利擁護委員：

権利擁護委員と相談調査専門員のスキル向上で対応していきたいと思いますが、一方で子ども相談室を利用したことがない子どもも多数いる中で、更に件数を増やしていきたいとい

う気持ちもあります。

○米森教育長職務代理者：

虐待について、学齢期の子どもは、学校の日や地域の日がありますが、未就学児についてはなかなか地域の日が届かず問題が顕在化してこないように感じますが、お考えを伺えますか。

○谷川子どもの権利擁護委員：

「西東京市は子どもにやさしいまちづくりをしている」という点をアピールすることが大事だと思います。地域の方が「あれ？」と感じたときに、子ども家庭支援センターやほっとルーム等へ連絡してもらえるような取組を進めていきたいと思っています。

○米森教育長職務代理者：

未就学児の相談については、どのような相談の申し立てになるのでしょうか。

○谷川子どもの権利擁護委員：

子育てに関する相談が、保護者の方から寄せられることが大半だと思います。

○市長：

就学前の虐待等のケースになると、近隣の方からの子ども家庭支援センターへの通報や、保育園、幼稚園の先生の気づきからの情報があるかと思っていますので、そこにアンテナを張っていききたいと思います。

○今井教育委員会委員：

相談ができる場所について、周知が進んでいるように感じます。子どもだけでなく、子育てをする大人も子ども条例についての理解を深める必要があるように思いました。

○服部教育委員会委員：

出前授業は是非継続して実施していただきたいと思っています。子どもが問題を抱えていることに親が気が付いていないケースも大変多いと思います。子ども家庭支援センターや保育園、幼稚園との連携はどの程度行われているのでしょうか。

また、子ども条例については知らない大人も多いと思いますので、母子手帳を配る機会に周知するなど、検討いただきたいと思っています。

○谷川子どもの権利擁護委員：

関係機関との連携は、相談者の立場を尊重し、子どもにとって不利益にならないように注意して連携したいと思います。

議題4 その他

○市長：

事務局より連絡事項を求めます。

(事務局説明：会議資料と会議録の公表、次回開催予定について)

○市長：

最後に、本日の内容を踏まえ、教育長、副市長から意見を求めます。

○教育長：

明保中学校の校長時代、学区域には町会などの組織もなく、学校と地域とのつながりが希薄でした。今回の柳沢中学校の取組は当時では考えられない非常に良い取組だと思いました。「関係機関との連携」とよく言われますが、大人同士の顔の見えるつながりが一番大切だと思います。教育委員会としては、その関係づくりに取り組んでいきたいと考えています。

○副市長：

私が生活文化スポーツ部長だった際、東京オリンピック・パラリンピックの学校観戦プログラムを実施しました。観戦は叶いませんでしたが、子どもたちの思い出に残してもらうため、教育委員会や学校の先生に御協力いただき、応援メッセージを子どもたちから募集しました。

地域との関わりは子どもたちにとって生きた学びであり、子どもたちの心に残すためにどのようにすればよいか。これは、学校だけでなく、地域とともに行政職員が考えていく必要があると感じました。それが子どもたちの将来の心豊かな人生につながると考えます。

○市長：

今回、より多くの御意見をいただき、建設的な議論ができるよう、会議形態を変えさせていただきました。振り返ってみて、大変有意義な場になったと実感しました。

市長部局と教育委員会がしっかりと連携を取って、子どもたちのために、また、市民の皆様のために様々な取組を実施していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上で、令和3年度第2回西東京市総合教育会議を閉会します。

<閉会>